

ゲーテの詩を読む

H. KAMEI

kamei@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kamei/goethe.htm>

1 Wandrers Nachtlied

Am Hang des Ettersberg / d. 12. Febr. 76/ G. との書き込みがある。

『キリスト信徒』(Christliches Magazin, hg. v. J. C. Pfenninger) 3 巻 1 号 (1780 年) に掲載。タイトルは "Um Friede"。詩の書かれた紙片の裏には、シュタイン夫人の母の手で、ヨハネによる福音書 14 章 27 節が引用されている。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

聖書は、この箇所の後、次のようになっている。『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。…わたしが父を愛し、父がお命じになったとおりに行っていることを、世は知るべきである。さあ、立て。ここから出かけよう (Steht auf und laßt uns von hier weggehen)。

5 doppelt (Grimm, DWb., Bd. 2, Sp. 1272)

3. *uneigentlich, verstärkend.* doppelte freude, sorge, furcht. doppelter genusz, ...

4. GÖTHER liebt die steigerung doppelt und dreifach, ähnlich dem lat. terque quaterque.
jegliche wehre die ihr getragen,
doppelt und dreifach ist sie mir werth

GÖTHER 10, 254.

Franz Schubert 1815 (D. 224)

Hugo Wolf 1888 (6 Gedichte)

Hans Pfitzner 1931 (6 Lieder, Op. 40)

2 Ein gleiches

一ヶ月後、ゲーテは誕生日 [28. August] を静かに迎えるために市内を避けてヴァイマル領内イルメナウに数日を過ごし、そこから昔若かった頃に馴染んだキッケルハーン山頂の狩猟小屋に足を運んだ [27. 8. 1831]。同行したイルメナウ森林顧問官マール [Johann Christian Mahr, 1787-1869] はゲーテの信頼が深かった人だが、そのときの様子を報告する。

「二階の部屋に足を踏み入れながらゲーテは言った。＜昔、夏にこの部屋で下僕と一緒に一週間を過ごしたことがあるのだが、そのとき壁に短い詩を書きつけたのだよ。その詩をもう一度見てみ

たい。そして、詩の下に日付があれば、それを書き写しては呉れまいかね。私はすぐに彼を南側の窓のところへ案内した。そこの左には鉛筆で次のように書かれていた。

すべての山々の頂に静けさが拡がり…

1783 年 9 月 7 日

ゲーテは詩句に目を通した。涙が彼の頬を伝った。彼は焦げ茶の上着のポケットから雪のように白いハンカチをゆっくりと引き出すと、涙を拭い、柔らかな、悲哀に充ちた声で言った。＜そうなのだ。おお 待つがいい ほどなく お前もまた安らぐだろうー＞。そして三十秒ほど沈黙すると、もう一度窓の外の暗い樅の森に視線を投げ、それからこちらに向き直って言った。＜さあ、行こう [Nun wollen wir wieder gehen.]＞」

＜さあ、行こう＞という最後の一言の響きは、この報告を読むものの心に残らずにはいない。ゲーテはその長い生涯の間、幾度となく、「さあ、行こう」と言ってきたのだった。生きることの魅惑と悲惨、人間の生の秘密を、その都度ぎりぎりの限度まで味わい尽くすと、彼は次の瞬間その現場から — あえて言えば、その犯行現場から、いつも「さあ、行こう」との一言を残して立ち去ったのだった。

(柴田翔 『詩に映るゲーテの生涯』 丸善ライブラリー)

1780 年 9 月 6 日 [!] に成立。

1801 年ロンドンの雑誌 "The monthly magazine; or British register" (Feb. 1801)に掲載。コッツェブー "Freimüthige" 誌に無許可転載 (20.5.1803)。1815 年の『著作集』に "Ein Gleiches" として、収録された。キッケルハーンの小屋は、1870 年に焼失。August Linde の写真が残されている。

Franz Schubert 1824 (D. 768)

3 Der Musensohn

2, 3 zu schweifen, wegzupfeifen geht's (=geht es) に係かる

5f. ... reg[e]t ... beweg[e]t ... sich alles

14 ihn = Traum

20 wie = wenn

26 ihr = ihr liebe[n] holde[n] Musen 君たち、愛すべき優美なミューズの神々

28 den Liebling = ich = Musensohn

30 ihr = eine Muse? あるいは、eine Frau?